

## 学校運営協議会 会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第8条第1項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

- 1 会議名 関特別支援学校 学校運営協議会 (第1回)
- 2 開催日時 令和8年6月10日(水) 10:00~12:00
- 3 開催場所 関特別支援学校 大会議室  
開催にあたり、委員による授業参観を実施した
- 4 参加者 会長 水野 友有 (中部学院大学人間福祉学部人間福祉科教授)  
副会長 森藤 由幸 (関市民生委員・地域住民代表)  
  
委員 市原 真紀 (岐阜県立ひまわりの丘第一学園 学園長)  
吉田 俊一 (Man to ManPasso 株式会社パッソ岐阜校マネージャー)  
大野美奈子 (レインボ-ハートフル生活介護事業所サービス管理責任者)  
不破美奈子 (PTA代表)  
澤井 基光 (岐阜県民生委員児童委員協議会会長)  
吉田 純也 (株式会社Fデザイナーズ代表取締役)  
学 校 側 遠藤 衣代 (校長)  
村山 朋子 (事務部長)  
三宅 千絵 (教頭)  
長瀬 やよい (小・中学部主事) 公務により欠席  
平野 倫史 (高等部主事)  
藤井 大悟 (教務主任)

### 5 会議の概要(協議事項)

#### (1) 学校経営計画、教育の重点、教育課程について

意見1: 学部や学年の枠組みを超えた交流が行われており、児童生徒にとって刺激となっている。その中で幅広く児童生徒の様子を見ることによって、教職員の資質向上にもつながっている。

意見2: 少人数であることにより教職員が全児童生徒のことを把握できるという強みがある。少人数の強みを生かして、個に応じたカリキュラムが組まれている。一方で授業参観の中で生徒の位置と電子白板の配置について気になる場面があった。

意見3: 同級生が欠席していても他学部との交流授業が行われており、保護者として安心感がある。

意見4：肢体不自由に特化、対応した施設はすばらしい。障がいのある子どもたちの「居場所」としても活用してほしい。卒業後のアフターケアについて知りたい。

→ 卒業後3年間、指導先と連携して追指導を行っている。進路先への直接訪問または電話連絡等で、卒業生の状況を確認している。

意見5：児童生徒の興味関心を引き出す、教職員の姿勢が勉強になる。個に応じた指導を社会がどう受け入れていくのか、考えていく必要がある。

意見6：地域の学校として、近隣の学校（下有知小学校、藍川中学校、中部学院大学、関商工高等学校、中濃特別支援学校）との交流を大事にしているところが評価できる。今後もさらにいろいろな方との交流を率先して行ってほしい。学校を見てもらうことが分かりあう機会となる。

意見7：行事案内などを地域にも配布してほしい。地域の学校として情報発信するとともに地域住民との交流も活性化してほしい。

## （2）作業製品価格について

意見1：新製品について価格設定等妥当である。鶉飼ミュージアムとのタイアップ製品等も検討してほしい。

## （3）委員長あいさつ

- ・昨年度の大学と学校との協働学習「バギーラン」の取組みにより、卒業生が地域の活動に参加する機会が広がり卒業生同士のつながりの形成につながった。
- ・少人数を生かした取組みの良さを地域に発信し、どんどん一般の学校へも広く展開していくことを期待する。

## 6 会議のまとめ

第1回学校運営協議会では、今年度の学校運営方針について全委員の承認を得た。小人数を生かした取組や部間・地域との連携に対し評価と賛同が示された。

作業製品の価格も適正として承認された。

今後は、小規模校の強みを生かした実践の維持・発信に努めるとともに、地域の協働学習の継続・発展を通して、児童生徒が卒業後も安心して暮らせる地域づくりに寄与していくことが大切である。